

🌸様々な工夫

民生委員の協力

机や椅子のセッティング、煮沸消毒に協力してもらっています。

また、毎月検食と手指消毒を徹底し、現在まで20年以上事故はありません。



アトラクション

以前は、地域にまつわる話（この辺りは昔みかん畑だったね、など）をしたり、ふるさとの歌を歌っていました。現在は、演奏などの鑑賞をメインに時々運動もしています。家では食後寝てしまう人も多いので、食事会の時は少しでも運動ができる時間にしてもらえればと思っています。

地域資源

季節に応じた彩りについては、食事関係の仕事をしていた人に協力していただき、アトラクションについては、わらべのうた（東山本地区のコーラスグループ）など地元のボランティアに協力していただいたりと、経験や特技を活かして活躍されています。

情報共有

会長の引き継ぎノート（共有ノート）に会議や研修内容を記録し、誰でも自由に見ることができるよう毎回持参しています。

また、班の様々な意見を出しやすくするためにグループを4つに分け、アイデアを出して盛り付けや味付けをしています。食後には必ず反省会を行うことで、ボランティア同士で意見を共有すること、みんなでほっとする時間を大切にしています。



何らかの理由で食事会に参加できない方に対する支援に力を入れていきたいと考えています。

ぼたんの会の会員も増えてほしいです。ぼたんの会がないとハマナス会も存在する意味がありません。健康を維持していつまでも元気に長生きしていただきたいです。

給食ボランティア連絡会



おもに一人暮らし高齢者を対象に、手作りの食事を提供しているボランティアを「給食ボランティア」と呼んでいます。社協では現在17グループに登録していただいています。

「給食ボランティア連絡会」は、各地区給食ボランティア代表者が情報交換を目的として会議や交流会、見学会を実施しています。



▲見学先での意見交換

いきいきサロン

～山本地区福祉委員会～

※概況P.57

「コミュニケーション麻雀」

いきいきサロン 「コミュニケーション麻雀」

- ・ 日 時：毎月第1土曜日13時～
毎月第4土曜日15時～
※各回、約2時間ほど
- ・ 場 所：堤町集会所
- ・ 参加費：なし
- ・ 対 象：どなたでも



コミュニケーション麻雀とは

①呑まない、吸わない、賭けない！



③1つの牌が238グラムのタワシ大



②牌1式で33kgも



箱3セットで一式



マット

④ルールが簡単で、
初めての人でも親しみやすい

⑤2～3人のチームで話し合いながら
対戦できるので、1回に最高12人まで
が参加できます。

❁ きっかけ ～頭と体の両方を使う遊びの面白さ！～

小ネット（サロン）研修会「コミュニケーション麻雀の実演」（主催：八尾市社協）に参加。その際に、頭と体どちらも使う遊びであったことと、社協から「してみないか」と勧められたことを機に興味を持ち始めました。研修会以降は思い切って動き、すぐに購入するなどサロン実施に向けて準備を始めました。

「麻雀」には男性が行う不健康なものとの印象が強いことや、新たなサロン実施だったため、開始時は人を定着させることに苦労しました。けれども、一度体験すると面白いことは分かっていました。だからこそ、「一回してみないか」と、一人ひとりに声かけていくなど参加の呼びかけに努めました。そのおかげで、当初4人だった参加者が20人ほどのメンバーにまで増えて楽しく活動しています。

❁ 工夫 ～だれでも楽しめるルールを～

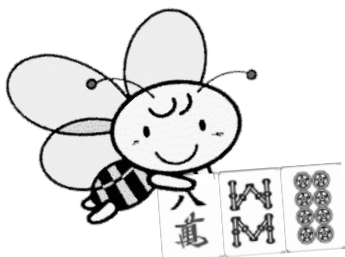
従来の麻雀のルールから、サロンに合わせてわかりやすく簡単なルールにしました。女性の参加者の方が多く、その大半は麻雀を知らない人が多い。そのため、馴染みやすいように変えていきました。ゲームの勝ち負けではなく、みんなで楽しんで遊べることを大切にしています。

また、サロンを運営するにあたり、地区福祉委員長主導ではなく、参加者の中から担い手を見つけていきました。

❁ これからについて ～参加の場を増やしていきたい～

現在、コミュニケーション麻雀の他に、コーラスやヨガ、輪投げ、カラオケ等多くのサロンを実施しています。これからも、様々な内容のサロンを実施することで、地域の方が参加できるきっかけを多く作っていきたいです。

そして、各サロンごとにリーダーを見つけていき、地域内の担い手づくりへとつなげていきたいです。



ふれあい喫茶型サロン

～長池地区福祉委員会～

※概況P.45

ふれあい喫茶型サロン

- ・日 時：毎月第2土曜日 13時～16時
(8・12・1・3月を除く)
- ・場 所：緑ヶ丘コミュニティセンター
- ・メニュー：コーヒー・紅茶・ジュース、
お菓子
- ・料 金：100円
- ・対 象：長池地区在住の方どなたでも



▲緑ヶ丘コミュニティセンター

▼メニュー



▲調理場

❀ きっかけ ～研修を受け、「これだ!」と思い立ってすぐ始めました～

ふれあい喫茶型サロン研修会（主催：八尾市社協）を受講して、ふれあい喫茶型サロンに興味を持って始めました。研修会后3か月間の準備を経て、念願の実施に至ったのが平成20年6月。開始から、あっという間に8年が経ちました。

準備中は、「思ったらすぐ行動」をモットーに進めました。必要な物は、歳末募金の助成で、食器やテーブルクロス、湯沸かし器等を購入しました。

立ち上げ後は、他地区の方が見学に来られることもありました。テーブルクロスやメニュー、看板などいろいろ見学して帰られました。

喫茶運営にあたり、ボランティアである私たちが楽しむことを大切にしています。

❁ 工夫 ～楽しんでもらえるように～

楽しんでもらいたい思いで実施しています。喫茶に来てくれた方へ、声をかけ、話しかけています。また、少しでもお得でおいしいメニューを提供できるように、食材の購入を心掛けています。

振り返り、改善していけるように開設当初から、収支や購入物、参加人数などを記録しています。



❁ これからについて ～輪をもっと広げていきたい～

もっと広い範囲の方に楽しんでもらいたいです。この喫茶が楽しみで来てくれる方もいる反面、この喫茶を知らない方や無関心の方もいます。そういった方にも興味を持ってもらい、たくさんの方に参加してほしいです。一回来たら雰囲気もわかり、話しやすい雰囲気です、気軽に寄れると思います。ぜひ、若い人にも来てほしいです。

これからも変わらず、楽しみながらボランティアしていきたいです。

〈社会福祉協議会ニュース〉ふれあい喫茶型サロン交流会をしました

ふれあい喫茶型サロンの原点に回帰し、ふれあい喫茶型サロンならではのやりがいや面白さ、困りごとなどを担当者同士が話し合える場として、交流会を実施しました。

- 実施日：2015年12月10日、12月14日
※32地区福祉委員会を2つに分け、同内容で2回開催しました。
- テーマ：「担当者のつどい場、ふれあい喫茶型サロンのやりがいや悩みを共有！
～これからふれあい喫茶型サロンをしようと考えている方も大歓迎！～」
- 内 容：第1部 ふれあい喫茶型サロンについて
第2部 グループワーク・交流会



ふれあい喫茶型サロンについて、ぜひ八尾市社会福祉協議会へお問い合わせください！

子育てサロン

～曙川地区福祉委員会～

※概況P.28

ふれあい広場

- ・日 時：毎月第2月曜日（8・12月を除く）
10時～12時
- ・場 所：曙川コミュニティセンター2階
- ・対 象：0歳～就園前児



❁きっかけ ～子育てサロンの必要性～

開始当初は、1階の小さな部屋からのスタートでした。食事会など他の活動でもコミセンを使用していたので、部屋の確保が難しく、思うように活動できませんでした。それでも、子育てサロンの必要性を訴え続けた結果、現在は出張所が積極的に部屋の確保に協力して下さるなど活動の重要性が広く認識されていきました。

その後、他地区からの講師を八尾市社協で紹介してもらい、学習会を行うなど勉強も重ね、更生保護女性会の活動から地区福祉委員会の小地域ネットワーク活動へと展開していきました。このように参加者同士の交流・情報交換の場を地区福祉委員会で作ることができたことは大きな成果です。また、参加者に地区福祉委員会の活動に関心を示してもらえるようにもなりました。現在、毎回30人前後の親子が参加されています。

❁工夫 ～親子が楽しめる内容を～

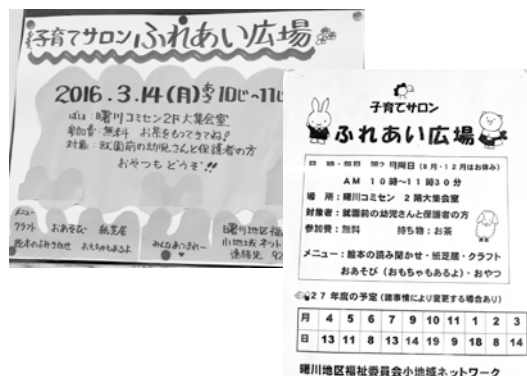
活動を開始して間もない頃は、遊具もないので幼稚園のお古をいただいたり、八尾市社協の助成金を活用して少しずつ揃えていきました。

受付は、幼稚園のPTAさんに協力していただき、社協（各種講座）や保健センター（保健師の講話）、地区福祉委員会内の各種団体、子育てサークルと連携して、参加しやすいプログラムを実施しています。

子育てサロンの集大成として子育てフェスティバルを年1回開催しています。遊び、食べ物、クラフトコーナーなど親子が楽しめる内容で近隣の曙川東地区や刑部地区の方も参加される大きなイベントです。近隣地区との連携も行い、子育て親子を支援しています。



▲「看板」



▲「手書きポスターや回覧板」
毎月のポスターや年間予定表のチラシを掲示し、地域へ呼びかけています♪



▲「受付」
親子とも名札をご用意し、子育てサロンの写真も時々お渡ししています♪



▲「親子遊び」
スキンシップをして子どもたちは大喜び♪



▲「あなたのまちの健康相談」
隣の部屋では、市役所所の保健師さんによる相談受付や身体測定を実施♪



▲「絵本の読み聞かせ」
「パネルシアター」



▲「バルーン作り」



▲「おやつ」



▲「後片付け」
挨拶と同様、一緒にすることでマナーがよくなりました♪

参加者をお客さんにしないことに注意を向けています。バルーンや色紙、おもちゃなど遊べる材料が多いため、保護者が子どもに興味を示さない場面が時々見受けられます。子どもが危険な時には手助けするために目を光らせているものの、やはり主体的に動いてもらうよう極力保護者に任せることを心掛けています。参加者の自主性をどう引き出すか、保護者の責任を育むためにはどのように関わっていけるかが課題です。

子育てサロン活動を今後どうしていきたいか参加者へ要望アンケートをとり、地域と一緒に進んでいきたいと考えています。



世代間交流

～曙川東地区福祉委員会～ ※概況P.29

世代を越えたふれあい祭り

- ・日 程：7月最終土曜日
- ・場 所：曙川東小学校グラウンド



❁ きっかけ ～地域みんなに楽しんでもらえるような行事をやろう！～

曙川東地区福祉委員会が発足した平成8年、みんなに楽しんでもらえるような事業をやろうということで、一人の地域の委員から「盆おどりとかどうだろうか」という意見が出ました。そこから地域で協議を重ねていき、盆踊りの他に各団体の模擬店を出したら高齢者から子どもまで来てくれて面白いんじゃないかということで、当行事がスタートしました。

毎年、7月の最終土曜日に曙川東小学校グラウンドで実施。午前8時から200数十名の実行委員が一堂に会し、会場設営に入り、15時前には全て終了。17時から「たそがれコンサート」がはじまり、曙川東小学校の児童や地域の方が踊りや唄などを披露。18時30分からは、食べ物やゲーム、PRブースなど約20の模擬店が開始し、行列が出来ています。19時過ぎから始まる盆踊りで、みんなが輪を作り踊りだし、大いに盛り上がりながら22時頃に閉会します。

❁ 工夫 ～よりよいものを～

地域のメインイベントなので、地域内の各団体へ模擬店を1店舗は出してもらおうようお願いをしています。また、模擬店の開始が早いと盆踊り前に帰ってしまう人も多かったので、模擬店前にたそがれコンサートを開くようにしました。

実施までは何度も会議を重ね、終えた後は反省会を開き、色々な意見を聞きながら良い方向へと改善してまいりました。

❁ これからに向けて ～メインイベントとして～

協力してくれる各団体みんながいてこそできることであり、地域を大事にしていきたいです。また、地域の大きなイベントだから、今後も継続して実施していきたいです。



世代間交流

～南山本地区福祉委員会～ ※概況P.52

わくわくプラザ

- ・日 時：毎月第2・4土曜日
9時～11時半
- ・場 所：南山本小学校・集会所



❁ きっかけ ～子どもたちの居場所作り～

南山本小学校より、第2・第4土曜日を地域の高齢者の方たちに「教育の一端を担ってほしい」との依頼を受け、学校と話し合いながら、絵画・人形劇・英語・工作・陶芸・ニュースポーツ・お作法等を空き教室や集会所を利用して実行することが決まりました。

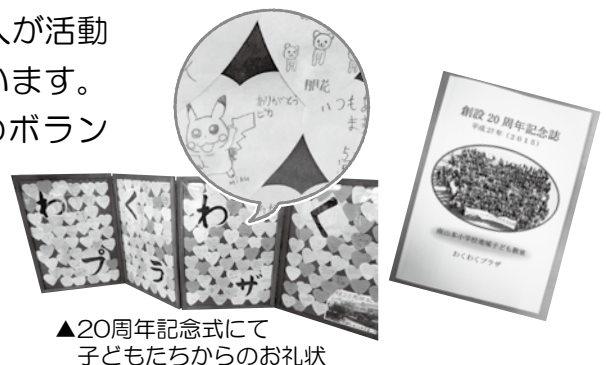
活動を「わくわくプラザ」、ボランティアを「わくわくプラザ実行委員」と名付け、土曜日が休みになった子どもたちの居場所作りとして南山本小学校・集会所で実施。平成7年5月10日に第1回わくわくプラザを開始しました。その後、合奏教室なども新設しました。

初めは資金もなく、道具もあるものを持ち寄っていましたが、周りの人に相談して収納倉庫や楽器などの物資を提供してもらいました。現在では、学校の道具を使用したり、広報のために作っていた『わくわくプラザ新聞』も先生が作って生徒に配ってくれたり、学校の協力もあり地域での認知度が高い活動となりました。

❁ 工夫 ～平成27年に20周年を迎え長年愛される活動へ～

地域の子どもたちと大人をつなぐ場でもあります。例えば、靴は脱いだら揃えて並べるなどの礼儀について活動を通じて伝えることができます。そういったかわりが地域で顔なじみとなり、道で会うと挨拶し合う関係となっています。

わくわくプラザ実行委員は、地域の人たちで約60人が活動しています。特技を活かして参加している人も多くいます。また、わくわくプラザに参加していた現在大学生のボランティアさんも活躍しています。このように地域の人たちが地域資源となり、わくわくプラザを支えています。そして平成27年には20周年を迎え『わくわくプラザ20周年記念式』が挙行されました。



▲20周年記念式にて
子どもたちからのお礼状

❁ 参加者の声 ～「あってよかった」～

「とても楽しくて、やっぱりわくわくプラザがあってよかったなと思いました。地域の人たちもすごくやさしくて、とてもいいに教えてもらえるのでとても楽しかったです」「また行きたいです」と、南山本小学校では1回で延べ300～350人の子どもたちが集まる馴染みのある活動となっています。

(参考) 小地域活動該当事業一覧表

	<h2 style="text-align: center;">個別援助活動</h2>	<h2 style="text-align: center;">グループ援助活動</h2> <p style="text-align: center;">(下記の中から、可能な限り2種類以上の活動を実施すること)</p>
該 当 事 業	<p>見守り・声かけ訪問活動 ひとり暮らし高齢者や障がい者、子育て中の親等支援を必要とする者に対する見守り、安否確認、声かけ訪問活動。</p> <p>家事援助活動 食事づくり、買い物、掃除、洗濯、つくろい、布団干し、代筆、郵便物の投函等の簡易なサービス</p> <p>介護・介助援助活動 寝たきりの高齢者・障がい者への簡単な身の回りの世話、清拭、洗髪、外出介助等 介護している家族への援助(留守番、買い物等)</p> <p>軽作業援助活動 草刈りや棚や手摺の取り付け等の簡単な大工仕事</p> <p>ガイドヘルプ活動 散歩や買い物、病院等の外出時の付き添い</p> <p>介護用具・自助具リフォーム活動 寝たきりの高齢者や障がい者のための簡単な自助具や衣類等の製作・リフォーム。保健師やホームヘルパー等の協力を得ながら、製作を通して、対象の高齢者・障がい者との交流を図る。</p> <p>配食サービス活動 ひとり暮らし高齢者等食事の用意が困難な者を定期的に訪問し、栄養のバランスのとれた食事を提供するとともに安否確認を行う。</p>	<p>ふれあい食事(会食)サービス活動 ボランティアの協力により昼食を挟んで、高齢者、障がい者等が地域住民とのふれあい交流を図る。</p> <p>いきいきサロン活動 ボランティアと高齢者、障がい者等が協働で企画し、内容を決め、運営していく楽しい仲間づくりの活動。ふれあい喫茶型サロン等。</p> <p>ミニデイサービス活動 デイサービスの地域版。保健・福祉・医療関係者がボランティア、介護体験者等がスタッフとなり、地域の集会所等を利用し、高齢者や認知症高齢者、障がい者等を対象にプログラムを用意し、活動を通して高齢者等の機能の減退防止とふれあい交流を行う。</p> <p>地域リハビリ活動 OT、PT等の専門スタッフの指導とボランティアの協力による小地域でのリハビリ活動。専門のスタッフが用意したプログラムによる活動が中心となるが、参加者の送迎や会場の下準備等、運営を支えながら交流を図る。</p> <p>世代間交流活動(子どもとのふれあい交流) ひとり暮らし高齢者等との催し物を通しての交流。歌や人形劇等の披露や地域の高齢者から昔からの遊びを教わったり、戦争体験や昔の生活の様子を聞く等。</p> <p>子育て支援活動 子育て中の親子等が集まり、ボランティアとともに遊びを通じて子どもの成長について学ぶ。また、子育てについての交流活動、相談活動などを行う。</p>